

ガイ

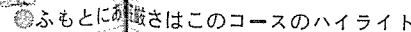
自然に親しんだり、歩く機会が日常生活では、ほんとうに少なくなった。都会の子どもたちは、土にふれる機会さえなくなつたといわれている。

こんなところから東海道自然歩道の計画が厚生省から発表され、各地で建設が進められている。愛知県では、鳳来寺山、香嵐溪などが開通、豊田市内でも通過部分はすでに開通した。五月の広報青少年版では、市内山中町から西広瀬町までを紹介したが、今回はこれに引き続き、猿投山周辺を紹介した。

くつもかさなつた変化にとんだ山である。右手の小川のせせらぎに導びかれて三十分ほどドライブコースを登ると左手にお倉岩がある。そのすぐ上には東の宮への参門になっている御門杉とよばれる大きな杉の木がある。自然歩道はここから旧参道を登る。道はかなりきつく、丸木でつくられた階段状の登山道が続く。人恋しいのかウグイスが後になり、先になりして、たえまなく美しい鳴き声を聞かせてくれる。四十分ほど登ると視界が開け、眼下に三河平野、矢作川、東郷池、遠くは幡豆の山なみを見渡すことができる。景色をながめながら少しここで休憩。

ここから四十分ほどで東の宮。ふもとにある本社、山頂ちかくの西の宮とともに、猿投三社大明神として崇敬されてきた。東の宮から山頂までの道は、原生林の木立ちにかこまれた昼なお暗い道だ。やっと山頂、木立ちの間から瀬戸方面を見渡すことができる。東の宮から山頂まで三十分の道のりである。

ここから四十分ほどで東の宮。ふもとにある本社、山頂ちかくの西の宮とともに、猿投三社大明神として崇敬されてきた。東の宮から山頂までの道は、原生林の木立ちにかこまれた昼なお暗い道だ。やっと山頂、木立ちの間から瀬戸方面を見渡すことができる。東の宮から山頂まで三十分の道のである。



●山頂付近にある東の宮への登山道

